

第1回 健康講話

農業者が抱く放射線に対する不安を払拭するため J A 福島共済福祉事業団及び除染情報プラザの協力を得て、健康講話を実施しました。

- 1 開催日時 平成 26 年 6 月 18 日 (水)
- 2 開催場所 摺上亭大鳥 (福島市飯坂町)
- 3 参加者 53 名
- 4 講師 自然科学研究機構 核融合科学研究所 准教授 佐瀬卓也氏 (会津出身)
- 5 講演テーマ
放射線・放射能とのつき合い方～何に気をつけ、何は気にしなくてもよいのか
- 6 講演の内容

○講演では以下のような話をさせていただきました。

- ・放射線は、「見えない」、「さわれない」、「におわない」、「聞こえない」、「味がない」、「ものを通り抜ける」が、「測定すること」は出来る。
- ・放射線はたくさんだと危ないが離れたり、防いだり、長い時間近くにいなければ避けることが出来る。
- ・普段の生活において、水道水や空気は問題ないが、土壌は一部にやや高いところがあるので、手や体が汚れたら早めに洗う、外から戻ったらうがいをする、衣服はこまめに洗濯する等衛生的な生活を心がける。
- ・農作業後には汚れをしっかりと落とし、作業着等は洗って清潔にすることで追加被ばくを極わずかにできる。
- ・おいしい食事や適度な運動、よく寝ることも免疫力の向上に役立ち、放射線の影響を小さく出来る。

○質疑の時間には、「避難地域の除染後の農地で、農作物の栽培を始めることができるのか？」や、ジャガイモの放射性物質濃度に関する質問がありました。

